

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年10月16日 NO.56 (256)



イヌタデ(タデ科)

オー君 「あれ！これ、見たことあるぞ。」

花ちゃん 「あれ！これ、イヌタデですね。」

オー君 「そうそう、イヌタデだ。校長室前にたくさんあった花ですね。」

花ちゃん 「国立七小の学校近くのあちこちや、校庭のうら庭などにもありますね。このイヌタデは、おままごとによく使われるものですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。モンタ博士が小さいころは、『アカマンマ』とってたよ。」

オー君 「アカマンマ？何だ、そりゃ？」

花ちゃん 「あのね、お赤飯ってあるでしょ。それによく似ているから、アカマンマとい

うのよ。そうですね。モンタ博士。」

モンタ博士「そうだね。小さいころは、このイヌタデを使っておままごとをしたよ。」

花ちゃん「ところで、モンタ博士。このイヌタデというのは、とても花の期間が長く、いつまでもよく咲いているお花ですね。ずうーっと、赤い花のままですね。」

モンタ博士「うん。まあ、そうだね。」

オー君「でも、おかしいよね。咲いた花はいつかはしぼんでしまうよね。いつまでも咲いているというのは、ちょっとへんだよ。」

モンタ博士「なるほど、オー君のいうとおりだね。それじゃ、イヌタデがどうやって咲いているか、よく見てごらん。」

花ちゃん「よく見ると、小さな花がたくさん集まっているんですね。白く見えるものと赤いものが見えますね。」

モンタ博士「そうだろう。ところどころ白く見える部分が咲いている花で、赤い色をしているのは、つぼみや咲き終わった花なんだよ。」

オー君「え！花がおわっても花がある？どういうことですか。」

モンタ博士「イヌタデというのはね、花びらに見えるけど、花びらがなくて、本当はがくというもののさ。ふつう花が終われば、花の色はあせたり散ったりしてしまっただろう。がくだからいつまでも残って赤い色をしているんだよ。」

花ちゃん「なーるほど。それで、いつまでも花がさいているように見えるんですね。そして、虫たちに咲いている花がめだつように、花を白く変化させるのですね。」

蓼(たで)食う虫も好き好きとは…???

人の好みは、人それぞれ違いがあるという意味の諺です。この場合の蓼(たで)とはヤナギタデのことで、かむとぴりっと辛みがあります。この辛みが人間の食習慣で好まれて、芽タデを刺身のつまにしたり、たで酢の材料などにします。一方、イヌタデには辛みがまったくありません。それで、役にたたないとか、偽物いうことで、イヌという接頭語がついてしまったようです。よく植物名にイヌの名前がつくものがありますが、それらは、全て同じような意味です。イヌムギ・イヌビエ・イヌホウズキ・イヌビユなどなど。なお、イヌという接頭語がついた植物名は、牧野植物図鑑では草本・木本・シダ植物などすべて含めて74種もあり、他の動物名が接頭語につく植物名は、クマは22種。ネコが8種、キツネとタヌキが6種です。

第2回「国立七小検定」について

学芸会が終わりましたので、第2回国立七小検定を行うことにしました。問題は第1回と全く同じです。日時は10月23日(金)の放課後に実施します。詳しくは、検定申込書をご覧ください。一人でも多くの方が検定受験されるのをお待ちしております。